

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520502

研究課題名(和文) 統語構造と意味・音韻のインターフェイス研究 - 否定・疑問・焦点化と照応・削除

研究課題名(英文) A study of syntax-semantics and semantics-phonology interface-negation, question and focus

研究代表者

稲田 俊明 (INADA, Toshiaki)

長崎大学・言語教育研究センター・教授

研究者番号：80108258

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)： 焦点化に関わる事象について、省略や文断片、否定、WH-構文、照応を中心に研究した。生成文法の標準的アプローチの問題点を洗い出し、新しい言語機能モデルを探索するために、統語構造-意味、統語構造-音韻のインターフェイスのみならず、言語運用に関わる問題を取り上げて、研究した。

稲田は、特に文法における言語運用上の要請について、文断片による応答を中心に研究し、福岡言語学会40周年記念大会その他で結果を公表した。また、等位接続構造に関わる統語範疇の問題についても、独自の提案を行った。西岡、今西は、否定、照応、削除に関わる現象とインターフェイスの問題について新しい提案を行い、論文や学会で公表した

研究成果の概要(英文)： The study showed that the standard approach in generative grammatical theory has a serious problem as a theory of the faculty of language (FL). We investigated the phenomena concerning the syntax-semantics/syntax-phonology interface, for instance, wh-constructions, negation, anaphora, etc., and pointed out the problems of focus-representation in the standard approach.

It has been demonstrated in our study that the theory of FL should take into consideration the requirement of language performance to construct the proper model of FL in generative grammar.

The papers concerning alternative approached to FL has been presented by Inada, Imanishi and Nishioka in paper and oral presentations in workshops and linguistic conferences.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：焦点化 インターフェイス 言語機能

1. 研究開始当初の背景

(1) 統語構造と統語・意味・音韻のインターフェイスに関する研究は、Ramchand and Reiss (2007) 等に概観されるように、多様な言語事象について様々なアプローチにより活発に展開されていた。しかし、文断片を含む省略、照応、否定などを焦点化や言語運用からの要請に関わる問題として研究しているものはなかった。

(2) 類型論的に異なる多数の言語の調査に基づいて、間接疑問縮約、単独要素残置 (Bare Argument Ellipsis)、動詞句削除、疑問文に対する応答や文断片に関する形態統語特性と意味・談話特性など、発音されない表現の背後にある統語特性や意味特性の解明が試みられているが、十分とは言えなかった。

(3) このことから、焦点化、インターフェイスの諸特性、談話や言語運用からの要請を関連付けた研究は、ある意味では、生成文法の言語機能を目指す理論の試金石となる。

(4) 言語間変異の調査が進み、文断片、省略、照応、否定など焦点化と関係する問題の解明が進展すれば、インターフェイスの特性の解明に留まらず生成文法理論の進展に大きな貢献をすることが期待される。

2. 研究の目的

(1) 焦点化に係わる言語事象の通言語的な調査を行い、それらの統語形式と解釈、言語運用上の要請などについて、その普遍特性と変異可能性を解明する。特に、否定と焦点化、WH 構文と焦点化、疑問応答における文断片と焦点化について詳細に調査し、その普遍特性と変異可能性を解明する。また、従来の言語機能モデ

ルの問題点を明らかにする。

(2) 照応・削除についての形態・統語特性、意味特性、語用・談話特性について通言語的に調査し、その普遍特性と変異可能性を解明する。

(3) 通言語的な変異可能性が人間の言語機能のどのような特性に由来するかを検討し、従来の普遍文法モデルと言語獲得モデルを構成する仮説群の妥当性を検証する。

(4) 言語機能の特性の解明をめざす標準的なアプローチ(原理とパラメータ仮説など)の問題点を洗い出し、言語間や個別言語内にみられる有標の変異特性を説明できる言語機能モデルでは、どのようなインターフェイス条件が必要とされるかを解明する。

3. 研究の方法

(1) 同時に、生成文法の普遍文法モデルにおける仮説群、特にインターフェイスの位置づけについてこれまでのアプローチの問題点を洗い出す。

(2) 言語理論、特にインターフェイス関連の文献調査を精査して、本研究の方向と成果の妥当性を検証する。

(3) 各種のWH構文、文断片を含む省略構文、照応関係とインターフェイス(統語・意味/統語・音韻/統語・談話)の関連について検討して、課題を整理する。否定現象とインターフェイスの関連について、標準的文法モデルの問題点を洗い出す。

(4) 本プロジェクトに関連する研究者と中間的研究成果について意見交換を行い、研究の軌道確認と点検を行う。

(5) 研究成果を福岡言語学会のワークショップ、シンポジウム等を利用し、中間的成果を公開し、意見を聴取する。

4. 研究成果

(1) 生成文法の普遍文法モデルにおける仮説群、特にインターフェイスの位置づけについてこれまでのアプローチの問題点を指摘し、代案を提示した。

(2) 特に、焦点化に関わる事象について、省略や文断片、否定、WH-構文、照応を中心に研究して、新たな提案を行った。

(3) 標準的アプローチの問題点を克服して、新しい言語機能モデルを探索するために、統語構造と意味、構造と音韻のインターフェイスのみならず、談話や言語運用に関わる問題を取り上げて、研究した。

(4) 稲田は、特に言語運用上の要請が文法にどのように影響するかについて、文断片による応答を中心に研究し、福岡言語学会4周年記念大会、その他で結果を公表した。また、等位接続構造に関わる統語範疇の問題についても、独自の提案を行った。

(5) 西岡、今西もそれぞれ、否定、照応、削除に関わる現象とインターフェイスの問題について、新しい提案を行い、論文や学会で公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- ① 稲田俊明・「等位接続再訪」・『言語学からの眺望 2013』・査読有・九州大学出版会・2013年12月

- ② Nobuaki Nishioka (with Shigeru Miyagawa and Hedde Zeijlstra), “Negative Dependencies in Japanese,” *Proceedings of the 8th Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFLL):MIT Working Papers in Linguistics (MITWPL) 67*, ed. by Umat Ozge, pp. 231-244. 2013. 査読有
- ③ 稲田俊明・「機能拡張モデルと言語運用の要請—問返し疑問の応答に関する覚書—」・『文学研究』109号・査読無・九州大学人文科学研究院・pp. 87-108. 2012.
- ④ 今西典子・「主要部が音形を欠く名詞句表現をめぐって：普遍性と多様性の考察」・大橋浩他編集『ことばとこころの探求』・査読有・開拓社・pp. 75-93. 2012.
- ⑤ 西岡宣明・「否定文とA移動の再構築現象」・『ことばとこころの探求』・査読有・開拓社・pp. 190-204. 2012.
- ⑥ 稲田俊明・「疑問文の簡略応答と焦点化について」・『九州大学文学部 60周年記念論文集』・査読無・九州大学人文科学研究院・pp.115-136. 2011.
- ⑦ 西岡宣明・「否定現象を巡る機能範疇の統語特性と解釈特性—A移動の再構築現象を巡って」・日本英文学会第83回大会 Proceedings・査読無・pp. 156-158. 2011.
- ⑧ 西岡宣明・「文否定と否定素性移動」・『否定と言語理論』・査読有・pp. 51-73. 開拓社. 2010.
- ⑨ 稲田俊明・「ことばの意味と法則をさぐる」・大津由起雄編『はじめて学ぶ言語学』・査読無・ミネルバ書房・pp. 79-95. 2009.
- ⑩ 今西典子・「リレー連載：言語研究動向16、発音されない構造に潜む不思議」『言語』38巻7号・査読無・

pp. 6-7, 2009.

- ⑪ 今西典子・「ことばとところ：形と意味の結びつきの不思議」・『科学フォーラム』（特集ことばの科学）300号・査読無・東京理科大学・pp. 21-27, 2009.
- ⑫ 今西典子・「音形を欠く主要部名詞をもつ名詞表現について」・『語学ジャーナル』8号・査読無・語学教育研究所・pp. 79-86, 2009.

[学会発表] (計5件)

- ① 稲田俊明・「等位接続の非対称性について」・『言語学からの眺望 2013』福岡言語学会 40 周年記念大会、2013 年 12 月 14 日、福岡大学.
- ② 西岡宣明「発話の繰り返しと文法現象」『談話と統語構造とのインターフェイスを求めて』日本英文学会九州支部第 66 回大会シンポジウム、2013 年 10 月 26 日、鹿児島国際大学(司会件講師)
- ③ Nobuaki Nishioka (with Shigeru Miyagawa and Hedde Zeijlstra), “Negative Dependencies in Japanese,” *The 8th Workshop on Altaic Formal Linguistics*, 2013, 5. 18. University of Stuttgart. Germany.
- ④ 稲田俊明・「文法における言語運用の要請と文断片の問題」招聘講演・名古屋大学国際開発研究科. 2013 年、2 月 20 日.
- ⑤ 西岡宣明・「否定現象を巡る機能範疇の統語特性と解釈特性—A 移動の再構築現象を巡って」・日本英文学会第 83 回大会 2011 年 5 月 21 日、北九州大学

6. 研究組織

- (1) 研究代表者 稲田 俊明 (INADA, Toshiaki)
(長崎大学・言語教育研究センター・教授)

研究者番号 : 80108258

- (2) 研究分担者 今西 典子 (IMANISHI, Noriko)
(東京大学・人文社会系研究科・教授)

研究者番号 : 70111739

- (3) 研究分担者 西岡 宣明 (NISHIOKA,

Nobuaki)

(九州大学・人文科学研究院・教授)

研究者番号 : 80198431